**２０２３年７月28日(金)　高峰高原会場**

櫂　未知子

うるはしき標高にゐる道をしへ 島木　翠

道をしへ農耕民族はこちら 河西志帆

委ねるといふさざなみの風露草 島木　翠

岩鏡靴のタッセル揺らせゐる 山本こうし

〇 一頭の重みに傾ぎ風露草 宮坂恵子

中西夕紀

風露草吸ひつくやうに止まる虫 飛田小馬々

〇 黄菅なる交響楽の端にをり 櫂　未知子

夏霧や眼下に小諸光帯び 北原みゆき

喜雨ふくむ雲がぐんぐん走りくる 大矢知順子

一頭の重みに傾ぎ風露草 宮坂恵子

くぼ六茶

しがみつき眼ばかり動く蜻蛉かな 前田恵美

白シャツの君を好きをり山の蝶 中西夕紀

亡き母の過去を追ふ旅道をしへ 山本こうし

腰おろしたちまち蟻のえじきなり 内堀たづ子

〇 暗号のごと光り合ふ露の玉 飛田小馬々

野中　威

人声は地を這うてくる車百合 小川雪魚

咲くほどに桃色淡き下野草 小山久米子

みづうみの一枚欲しき夏の霧 櫂　未知子

雲海にうもれて青き深海魚 青木順子

〇 一頭の重みに傾ぎ風露草 宮坂恵子

山本こうし

夏霧をはつかに纏ふ顔なりけり 櫂　未知子

〇 少年に追ひ越されたる道をしへ 飛田小馬々

黄菅なる交響楽の端にをり 櫂　未知子

夏蝶の山気を纏ひ来たりけり 野中　威

一頭の重みに傾ぎ風露草 宮坂恵子

内田明夫

吾亦紅年より老けて見らるる日 飛田小馬々

深奥に辿り至れば吾亦紅 小川雪魚

みづうみの一枚欲しき夏の霧 櫂　未知子

呼ぶ声のいつかかすれて黄菅原 中西夕紀

〇 夏霧の山道下るオープンカー 小西弘子

関　隆夫

田に帰へる日数かぞへる夏茜 内田明夫

亡き母の過去を追ふ旅道をしへ 山本こうし

暗号のごと光り合ふ露の玉 飛田小馬々

〇 野に在つて威張らぬ我や風露草 内田明夫

山の神奉る社や花野道 小見戸　実

飛田小馬々

踏みし草すぐに戻りて蜻蛉かな 中西夕紀

夏霧や色濃き花を愛でをれば 島木　翠

呼ぶ声のいつかかすれし黄菅原 中西夕紀

夏蝶の山気を纏ひ来たりけり 野中　威

〇 一頭の重みに傾ぎ風露草 宮坂恵子

前田恵美

〇 老鶯や極楽の風浅間より 小見戸　実

踏みし草すぐに戻りて蜻蛉かな 中西夕紀

世の憂さを目玉回して夏茜 関　隆夫

夏霧や色濃き花を愛でをれば 島木　翠

恋人を下界に忘れ風露草 櫂　未知子

内堀たづ子

夏霧や色濃き花を愛でをれば 島木　翠

〇 亡き母の過去を追ふ旅道をしへ 山本こうし

高峰吟行柳蘭の紅と会ふ くぼ六茶

高原の花野の中へ花図鑑 くぼ六茶

保身なら棘もいじらし夏薊 くぼ六茶

青木順子

とんぼうもてふも懐こき夏山は 野中　威

委ねるといふさざなみの風露草 島木　翠

岩鏡靴のタッセル揺らせゐる 山本こうし

〇 夏あざみ一本ゆるるふと帰心 野中　威

斑猫がにゃんと言うなら信じよう 河西志帆

小山久米子

世の憂さを目玉回して夏茜 関　隆夫

〇 名を問へばきりつと返事夏薊 小西弘子

夏霧や眼下に小諸光帯び 北原みゆき

恋人を下界に忘れ風露草 櫂　未知子

高原の花野の中へ花図鑑 くぼ六茶

小川雪魚

白樺の高さに来たり夏帽子 島木　翠

道をしへ農耕民族はこちら 河西志帆

委ねるといふさざなみの風露草 島木　翠

〇 花涼しその名を口にする人も 前田恵美

車百合心に殖やしつつ戻る 中西夕紀

小見戸　実

この風の匂ひ懐かししもつけ草 大矢知順子

〇 雲海にうもれて青き深海魚 青木順子

しがみつき眼ばかり動く蜻蛉かな 前田恵美

吾亦紅年より老けて見らるる日 飛田小馬々

亡き母の過去を追ふ旅道をしへ 山本こうし

宮坂恵子

少年に追ひ越されたる道をしへ 飛田小馬々

世の憂さを目玉回して夏茜 関　隆夫

黄菅なる交響楽の端にをり 櫂　未知子

とんぼうもてふも懐こき夏山は 野中　威

〇 道をしへ月への道を教えよか くぼ六茶

小西弘子

高原にわけて色濃し夏薊 前田恵美

高峰の今雲の中お花畑 小山久米子

〇 斑猫がにゃんと言うなら信じよう 河西志帆

とんぼうもてふも懐こき夏山は 野中　威

夏薊あさぎまだらを放ちけり 宮坂恵子

大矢知順子

〇 保身なら棘もいじらし夏薊 くぼ六茶

老鶯や極楽の風浅間より 小見戸　実

夏霧や色濃き花を愛でをれば 島木　翠

呼ぶ声のいつかかすれて黄菅原 中西夕紀

虫乗せていよよ華やぐ夏あざみ 中西夕紀

河西志帆

保身なら棘もいじらし夏薊 くぼ六茶

黄菅なる交響楽の端にをり 櫂　未知子

〇 暗号のごと光り合ふ露の玉 飛田小馬々

喜雨ふくむ雲がぐんぐん走りくる 大矢知順子

恋人を下界に忘れ風露草 櫂　未知子

島木　翠

夏霧をはつかに纏う顔なりけり 櫂　未知子

夏薊一本ゆるるふと帰心 野中　威

〇 みづうみの一枚欲しき夏の霧 櫂　未知子

この風の匂ひ懐かししもつけ草 大矢知順子

斑猫がにゃんと言うなら信じよう 河西志帆

北原みゆき

似て非なる花へ踏みゆく車前草 小西弘子

それぞれにお花畑に沈みけり 小西弘子

黄菅なる交響楽の端にをり 櫂　未知子

熊注意の看板隠す夏の草 小西弘子

〇 一頭の重みに傾ぎ風露草 宮坂恵子